

学会彙報（二〇二一年一月～六月）

◇二〇二〇年度に提出された修士論文・卒業論文は次のとおりです。

一、大学院 修士論文

※論文名・氏名 リポジトリ非公開

二、文学部 卒業論文

※論文名・氏名 リポジトリ非公開

※論文名・氏名 リポジトリ非公開

※論文名・氏名 リポジトリ非公開

仏教学会活動報告

◇研究発表例会

- 一月十三日(水)午後四時二十分 於 慶開館(K二〇二教室)
「ツォンカパの密教思想」 本学教授 福田 洋一
「安田理深「縁起法の考察」について」 本学任期制助教 梶 哲也

◇卒業論文・修士論文梗概発表会

- 一月十四日(木)午後四時二十分 於 慶開館(K二〇三教室)
発表会終了後に記念撮影を行った。なお、例年開催していた
送別懇談会は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から
中止した。

◇福田洋一教授最終講義

- 二月二十四日(水)午後三時 於 響流館メディアホール
講題「ツォンカパ思想の形成過程について」

—中観・道次第・密教—

なお、福田教授の最終講義は本学仏教学科のほか、文学部人文情報学科ならびに大学院文学研究科国際文化専攻との共同で主催した。

二〇二一(令和三)年度 仏教学関係講義題目

一、文学部仏教学科

演習

仏教学演習Ⅰ

山本 和彦・采翠 上野 牧生

仏教学演習Ⅱ

箕浦 暁雄 新田 智通・三宅伸一郎

仏教学演習Ⅲ

新田 智通・三宅伸一郎
DASH SHOBA・上野 牧生

仏教学演習Ⅳ

戸次 顕彰 新田 智通・三宅伸一郎
DASH SHOBA・上野 牧生

戸次 顕彰

概論

仏教学概論

采翠 晃・山本 和彦

新田 智通・戸次 顕彰

講義

大乘仏教入門

インド仏教思想論

中国仏教思想論

日本仏教思想論

中国仏教史

日本仏教史

浄土教史概説

宗教史

インド学

現代仏教論

現代と真宗

死生学

生命倫理

人間関係学

地域仏教論

仏教学特殊講義1・2

『華嚴経』の研究

仏教学特殊講義3

(仏教遺跡と聖地巡礼)

仏教学特殊講義4

(小乗仏教聖典の世界)

実践研究

仏教文献基礎演習

箕浦 曉雄

上野 牧生

采翠 晃

R.FRHODES

倉本 尚徳

國賀由美子・大艸 啓

東館 紹見・平野 寿則

福島 栄寿・川端 泰幸

藤原 正寿

嶋本 隆光

上野 牧生

新田 智通

木越 康

門脇 健

藤枝 真

谷口奈青理

三宅伸一郎

織田 顕祐

山本 和彦

新田 智通

現代仏教演習

地域仏教演習

初期仏典を読む

浄土経典を読む

維摩経を読む

法華経を読む

欧文仏典を読む

仏教学特殊演習1・2

(『バガヴァッドギター』の精説)

仏教学特殊演習3・4

(『パリー語仏典を読む』)

仏教学特殊演習5・6

(ツォンカパ中観思想の理解を深める)

臨床フィールドワーク

パリー語

サンスクリット語

古典チベット語

梶 哲也・浦井 聡

中西麻一子・村上 無量

秦野 貴生・本明 義樹

岸上 仁

DASH SHOBA

秦野 貴生

本明 義樹・山田 恵文

梶 哲也

戸次 顕彰

MJCONWAY・井上 尚実

村上 昌孝

村上 昌孝

DASH SHOBA

福田 洋一

箕浦 曉雄

新田 智通

村上 昌孝

三宅伸一郎

二、大学院仏教学専攻

基礎科目

仏教の視点

木越 康・三浦誉史加

専攻交流演習

松浦 典弘・脇坂 真弥

専攻科目

仏教学特殊研究Ⅰ（講義）

箕浦 暁雄・采翠 晃

仏教学特殊研究Ⅱ（文献研究）

山本 和彦・采翠 晃

仏教学特殊研究（演習）

箕浦 暁雄・山本 和彦
采翠 晃

選択科目

仏教学特殊研究（論文指導）

箕浦 暁雄・山本 和彦
采翠 晃

仏教学研究1（初期仏教文献原典講読）

新田 智通

仏教学研究2（鈴木大拙の思想を知る）

山本 和彦

仏教学研究3・4（Reading the Sutra

of Immeasurable Life in English）

R.FRHODES

仏教学研究5・6（合同ゼミ）

采翠 晃・山本 和彦
箕浦 暁雄

インド学研究

山本 和彦

仏教学研究（文献研究）1・2

上野 牧生

（チベット訳仏教文献の研究）

福田 洋一

仏教学研究（文献研究）3・4

（ツォンカパの唯識思想の研究）

仏教学研究（文献研究）5・6

織田 顕祐

『大般涅槃経』の研究

織田 顕祐

編集後記

二〇二一年の上半期もコロナ禍に右往左往した。新型コロナウイルス感染症の拡大はとどまるところを知らず、その感染者は増加の途を辿っている。大谷大学では二〇二一年度も教室での対面授業が継続されているが、一部の受講生は様々な事情からオンラインでの受講を余儀なくされている。現在では多くの授業が対面授業とオンライン授業を併用したハイフレックス型授業となっている。四月に緊急事態宣言が発令された後も、恐る恐る教室でのハイフレックス型授業を継続している状況にある。もはやマスクをしたままでの生活にも慣れ、オンライン活動のための機材やアプリも充実してきたが、どこか隔靴搔痒の感を拭い去ることができない。いくら対面形式での授業が維持されているとはいえ、やはり学生たちもキャンパスでの日常生活を取り戻すに到っていない。

各大学での mRNA ワクチンの職域接種が始まる気配を見せている。大谷大学でも職域接種の準備が進められている。ワクチン接種がコロナ禍を打破する希望の光となるか。

その一方で、コロナ禍による活動の制限は共同研究の実施方法に大きな進展をもたらした。各種の学術大会・研究会は今やオンライン開催が標準となった。海外の学術大会・研究会にさえ、時差はあるものの、自宅から参加することが可能となった。人と会うこと自体がリスクとなってしまう今、もはやこうした流れは止まらないであろう。オンラインによる共同研究の普

及は、コロナ禍が残す、数少ない正の遺産となるかもしれない。本号には、学界においてながらくチベツト仏教研究を牽引してきた福田洋一先生の最終講義を掲載することができた。二〇一八年に福田先生のツォンカバ思想研究を集大成した『ツォンカバ中観思想の研究』（大東出版社）が出版された。本誌に掲載された最終講義録には、本書の「先」が示され、顕教のみならず密教をも射程に入れたツォンカバ思想研究の方向性が示されている。

執筆者のご理解とご協力のもと、本誌の定期刊行を実現することができた。ここに改めて各執筆者に御礼申し上げます。

（上野）